

敦賀発電所2号機の調整運転再開について (原子炉補機冷却水冷却器からの漏えい)

このことについて、日本原子力発電株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

敦賀発電所2号機(加圧水型軽水炉;定格電気出力116.0万kW)は、第15回定期検査の調整運転中に、原子炉補機冷却水系統^{*1}のA冷却器で冷却水が海水側に漏れていることが確認されたため、10月5日8時に発電停止、同日11時に原子炉を手動停止した。

漏えいの原因は、渦流探傷試験実施前の高圧水洗浄により、伝熱管内面の保護被膜が剥離するとともに、試験後の使用時に保護被膜を形成するための硫酸第一鉄水溶液の注入が行われなかったことから、深い減肉が発生し、その後の使用時に減肉部での流れの乱れにより、段階的に減肉が進展して、貫通に至ったものと推定された。

対策として、予防保全として取り替える管等を含め合計2,055本(A冷却器:1,866本、B冷却器:3本、C冷却器:9本、D冷却器:177本)を新品に取り替える。また、保護被膜を確実に形成するため、硫酸第一鉄水溶液の注入設備の健全性を確認することなどを運転操作手順書に明記する。

※1 原子炉補機と呼ばれる機器(1次冷却材ポンプの軸封部、使用済燃料プールの熱交換器等)を冷却している系統。冷却水は、冷却器の伝熱管(黄銅管;全3,096本)内を流れる海水により冷やされており、この冷却水に放射能は含まれていない。

[平成18年10月4日、13日、11月7日 記者発表済み]

上記の対策が完了し、耐圧・漏えい試験等により冷却器の健全性が確認されたことから、11月23日に原子炉を起動し、11月24日頃^{*2}に定期検査の最終段階である調整運転を再開する。その後、12月下旬には経済産業省の最終検査を受けて営業運転を再開する予定である。

※2 タービンバランシング作業(調整運転再開前にタービンの回転数を上昇させて振動を測定し、振動が大きい場合には、タービンの車軸におもりを取り付け、振動が小さくなるように調整する作業)が必要な場合には、調整運転再開が遅れる。

問い合わせ先(担当:三木)
内線2354・直通0776(20)0314